

岐阜大学地域科学部・林琢也研究室

2016 卒業論文発表会

岐大生が
卒論で語る
地域づくり

楽習会

和良町の地域づくりに毎回「協力いただいている、岐阜大学地域科学部林琢也先生の研究室に所属する学生さんが、卒業論文を和良町で発表します。
様々な視点から、様々なネタで、地域づくりについて研究されている学生さんの成果発表会です。
集落づくりの参考に、皆様お誘い合わせの上お越しください。
また、これから進学などを考えている中学生や高校生の皆さん「大学って、どんなことしているのかな?」を知る、いい機会です。
ご家族でお気軽に参加ください。(入場無料)

とき：3月16日(木) 夜7時30分から

場所：和良おこし公民館 (和良町下洞554番地)

(プログラム)

①稲葉繁樹 (いなばしげき)

「アニメ聖地巡礼地におけるホスト側の受け入れ体制の構築プロセス—高山市『氷菓』を事例に—」

②加藤皓也 (かとうひろや)

「四日市萬古焼産地におけるブランド化の課題と展望」

③平松桃子 (ひらまつももこ)

「離島における産業振興のあり方—島根県海士町を事例に—」

④前田優香 (まえだゆか)

「会津若松市における観光資源としての清酒の可能性」

【主催】岐阜大学地域科学部林琢也研究室 【共催】和良おこし協議会 【協力】和良振興事務所

【問い合わせ先】和良おこし協議会 ☎0575-77-2277

岐阜大学 地域科学部 林 琢也研究室

2016 年度卒業論文発表会「楽習会(がくしゅうかい) in 和良」

日時：2017年3月16日(木)夜7時30分より

場所：和良おごし公民館

【卒業論文発表者及び発表内容要旨】

・稲葉繁樹（いなばしげき）

「アニメ聖地巡礼地におけるホスト側の受け入れ体制の構築プロセス—高山市『氷菓』を事例に—」

近年、アニメ作品を契機に舞台やモデルの地域を訪れる「アニメ・ツーリズム」（通称「聖地巡礼」）が注目を集めている。本研究では岐阜県高山市を舞台にしたアニメ『氷菓』に注目し、ホスト側が聖地巡礼客を受け入れていくプロセスを詳細に検討し、地域住民、行政、コンテンツホルダー間でのどのようなやり取りが行われ、現在の受け入れ体制を構築していったのかを分析・考察した。

・加藤皓也（かとうひろや）

「四日市萬古焼産地におけるブランド化の課題と展望」

日本の地場産業は、国内各地に産地を形成し、さまざまな種類の製品を生産してきた。しかし、海外製の安価な製品の増加や日本経済の低迷により、地場産業産地でも新たな取り組みが必要とされるようになった。そのなかの1つが産地におけるブランド化戦略である。本研究では、四日市萬古焼産地におけるブランド化の課題と展望のあり方について関係者への聞き取り調査をもとに分析・考察した。

・平松桃子（ひらまつももこ）

「離島における産業振興のあり方—島根県海士町を事例に—」

日本は海洋島嶼国家であり、離島は日本を形成する基盤といえる。このため、その環境、産業、生活等が抱える諸問題は、良くも悪くも日本全体の問題と重なる側面をもつ。離島振興を考えることは、直接・間接的に島国日本の振興を考えることにつながるといっても過言ではない。本研究では、一般に不利な条件にある離島の多様な地域産業の振興のあり方について島根県海士町を事例に考察した。

・前田優香（まえだゆか）

「会津若松市における観光資源としての清酒の可能性」

近年、酒類（ワインやウィスキー、ビール等）を観光資源として活用し、地域活性化につなげようとする試みが世界各地で行われている。その一方で、清酒は日本において歴史のある、地域に根ざした産業であるものの、現時点でどのように観光振興や地域活性化に貢献し得るのかは十分に検討されていない。そこで、本研究では、歴史的な観光資源が数多く立地し、清酒業や漆器などの地場産業の盛んな会津若松市を取り上げ、その可能性を考察した。